

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470700327
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	グループホーム磯風の謡
訪問調査日	平成27年10月2日
評価確定日	2015年11月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470700327	事業の開始年月日	平成12年3月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	社会福祉法人 秀峰会		
事業所名	グループホーム磯風の謡		
所在地	(235-0023) 神奈川県横浜市磯子区森5丁目5-53		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年8月3日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://.shuhokai.or.jp>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

屏風ヶ浦の高台に位置し、ベランダより磯子の港を一望できるとも静かな環境です。日常においても生活を共にしているセラピードッグ「ピコ」との関わりや近隣のショッピングセンター等でのお買い物を通じて生活に張りが出るようにしています。また、1階デイサービスと協力して夏祭り等実施、ボランティアさんの来所時にもデイサービスの御利用者と一緒に参加して楽しんで頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年10月2日	評価機関 評価決定日	平成27年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●事業所の経営母体は社会福祉法人秀峰会です。法人の3つの理念「人間が主体である・連携の輪を無限に広げていく・日に日に新たな今日を創造していく」を玄関の目立つ場所に掲示しています。この理念は秀峰会の展開している全ての介護事業所で統一されており、一貫したケアが行われています。理念の周知は毎月第一・第三水曜日の法人代表によるTV朝礼、申し送り、カンファレンスの都度にも行っています。また、秀峰会グループでは職員一人ひとりが「羅針盤」(法人の理念やテーマ介護職員としての心得が記載された物)を携帯し、理念の実現に取り組んでいます。このホームは、京急屏風ヶ浦駅から徒歩で7～8分の高台に位置し、2階建ての建物で1階はデイサービス、2階が1ユニットのグループホームになっており、相互に協力し合って介護を展開しています。

●地域との関係については、1階がデイサービスになっており、夏祭りや年末の餅つき大会などの行事(デイサービスと合同で開催)には、地域の高齢者から子どもまで多勢の方に参加いただいている他、地域行事にも参加し交流を深めています。また、地域がら防災に関する意識も非常に高く、事業所の防災訓練や町内会の訓練に双方参加し、災害時の協力協定を締結しています。

●ケアについては、対価に見合ったケアの提供を心がけており、「ケアの質の向上・言葉遣い」について力を入れ職員間同士の日頃の言葉遣いにも注意し、毎月理念に引っ掛けた目標を一人ひとりに挙げてもらい、目標・理念に沿ったケアが実践できているか振り返りを行っています。セラピードッグ「ピコ」との関わりが利用者にとっての癒しと日常生活の張りに繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム磯風の謡
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が主体である ・連帯の輪を無限に広げていく ・日に日に新たな今日を想像していく という理念を事業所内へ掲示した朝礼の際職員間で唱和し確認している <ul style="list-style-type: none"> ・法人内・事業所内でその意味について研修会も実施している 	法人の3つの理念は「人間が主体である・連帯の輪を無限に広げていく・日に日に新たな今日を創造していく」です。毎月第一・第三水曜日に法人の代表によるTV朝礼、申し送り、カンファレンスの都度確認している他、名札の裏には「羅針盤」を携帯し、理念の振り返りを行っています。法人内・事業所内の研修でも理念の意味について話をしています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事（ふれあい食事会・町内主催の防災訓練・近隣中学校文化祭への作品出品・区役所への参加展示等）に積極的に御利用者と参加している。 ・夏祭り等に地域住民の方を招待して一緒に楽しんで頂く ・災害時の協力協定を締結している 	事業所の一階がデイサービスということもあり、事業所の夏祭りや餅つき等の行事はデイサービスと合同で開催しています。大家さんは、地域住民の方とお付き合いが長く、開所してから直ぐに自治会への加入や地域行事に利用者と一緒に参加していましたが、最近では回覧板を回してもらおう等、より一層地域との交流が深まっています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議や町内行事等の機会に認知症について話をしている ・町内会の方・御利用者のお茶会等を行い認知症の方と触れ合う機会を作っている 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回の運営推進会議ではグループホームの活動状況を知って頂いたり災害時の施設内状況を知って頂き地域協力の必要性を理解して頂いた上でアドバイスを戴いたり御意見を戴いたりしている 	偶数月の第二月曜日を開催日とし、町内会長・地域包括職員・利用者・利用者家族年1回は磯子区の職員に参加いただいています。状況報告や災害時における地域との協力体制についての話し合いを行っています。また、家族を含む参加者から直接意見・要望を聞く場として積極的に発言してもらえるように促しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラザの方から入居希望の方の問い合わせ、紹介を頂いている ・運営推進会議等の参加をして頂き、意見や評価、また地域の方への助言等行ってる ・区役所から介護相談員の受け入れ依頼もあつた 	地域包括職員は運営推進会議でも事業所の情報を伝えているので、入居希望者の紹介や、困難事例が発生した場合等に相談しています。磯子区からは研修案内や介護相談員の受け入れ依頼等について連絡を取っています。介護相談員の受け入れについては来年度から実施を予定しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員達は意識して身体拘束をしない介護を心掛けている ・やもおえずどうしても身体拘束をしなければならぬ状況が発生した時には職員全員で話し合い別な方法を精査している ・身体拘束禁止の研修を職場内・事業所内で実施している 	<p>身体拘束に関するマニュアル・内部研修の体制が整っており、管理者は出来るだけ多くの職員が参加出来るようにシフト面でも配慮しています。やもおえず身体拘束をしなければならぬ状況が発生した場合でも、職員間で話し合いなるべく拘束しなくて済む方法を模索しています。入口に関しては、デイサービスも併設している為施錠しています。</p>	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修を職場内・事業所内で行い職員全員が常に意識しながら業務に取り組んでいる ・あざ一つでも見逃す事がないよう職員同士声掛け連携して協力している 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員達は職場内・外研修に参加し知り得た内容を周知している ・必要になった場合すぐに繋がるようにしていく 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居に際し契約時本人・御家族と十分な時間を取り面接し双方からアセスメントを行い重要事項説明書・契約書・個人情報使用同意書・ターミナル・解約・金銭面等の説明を分かりやすく行い納得して頂いた上で署名・押印して頂いている 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・御家族・町内会・地域包括支援センターあ・職員・管理者等が集まって運営推進会議を2か月に1度行っている ・家族会や面会時職員は必ず御利用者の状況等の説明を行い御家族からの相談や意見にもしっかりと対応するよう心掛けている 	<p>家族からの意見については、基本的に面会時に聞いている他、運営推進会議や年2回の家族会でも伺っています。面会時は必ず利用者の状況等の説明を行った上で相談や意見を聞きしっかりと対応するように心掛けています。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・1か月に1回全体会議を行い職場内業務や運営について職員・管理者が話し合う機会を設けている	1ヶ月に1度の全体会議ではケアに関することや運営に関する話を聞き、年3回の面接の際には個人的なことも含め意見や要望について話を聞いてきます。法人では人事考査があり職員に記入してもらった「人事評価票」を基に管理者が面談を行い、昇給・昇格等へ反映させています。その際、併せて個人的な意見や要望を聞いています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回職員の人事考査があり職員に「人事評価票」を記入して貰いそれに沿って面談を行い、人事・事業部長・理事長へ繋げ、昇給・昇格・異動を行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・パソコンでの業務日報が事業部長へ挙がり必要に応じて理事長・代表へ報告されている ・職員・事業所長・事業部長・理事長・代表への報告・連絡・相談はズームズに行われている ・月1回事業部研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・管理者や職員は法人内研修や外部研修等に積極的に参加出来る機会を作り参加している ・管理者は法人内9事業所あるグループホーム会議と併設型会議に各月一回出席しグループホーム連絡会ブロック会にも積極的に参加している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実調の際御家族や御本人から良く話しを聴き生活環境を感じて実際の介護に生かし御利用者に安心した暮らしを提供できるよう心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・実調の際御家族や御本人から良く話しを聴き生活環境を感じて実際の介護に生かし御利用者に安心した暮らしを提供できるよう心掛けている ・御家族が見学・面会に来た時も話しやすい環境作りをめざし良好な関係作りに努めている(報・連・相をまめに行う)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所当初の御本人・御家族の意向を踏まえ日々の御利用者の心身の変化を良く観察し毎日の申し送りの中で職員間による検討・必要に応じて家族や医師に相談する体制を作っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・御本人の暮らしを生き生きとした物に出来るよう声掛け・確認の上、家事や犬の散歩等に職員と共に参加して頂いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・御家族へ運営推進会議参加をお願いしたり、お誕生会・夏祭り・外出等のイベントにご招待しそれぞれの役割を楽しんで頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・キーパーソンの方だけではなく御本人に關係のある御家族や馴染みの方々との電話連絡・手紙のやり取りを行い、気軽に面会ができるような環境作りに努めている	重度の方が半分位、馴染みの關係の維持は難しい状況にあります。本人に關係のあるご家族や馴染みの方々との電話連絡・手紙のやり取りをお手伝いすること、ご家族の了解を得て元気な方は個別に外出も行って頂いています。面会は気軽にできる環境作りを心掛けています。体調の關係でご家族との關係維持が中心となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 御利用者のほとんどの時間を共有スペースで過ごされている 職員の声掛け等で協力して家事等をされたりアクティビティーを一緒に行っている 御利用者同士お互いの居室を行き来し交流を図っている 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 退去後御利用者の御家族との手紙の送付や新しい入所施設への訪問お見舞い等を行っている 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 各ご利用者には居室担当の職員がおりご利用者一人一人の思いや意向を把握し必要に応じてご家族へ連絡・相談している 身の回りの物のお買い物等にはご利用者本人と一緒に買い物へ行き選んで頂いている 	居室担当を設けており、基本的には利用者一人ひとりの思いや意向を担当職員が把握した上で、支援計画記録や申し送りに記載し職員間で情報を共有するようにしています。必要に応じて家族へ連絡し、意向に沿った支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 実調の際ご家族・ご本人からよく話を聴き生活環境を感じて実際の介護に活かしご利用者に安心した暮らしを提供出来るよう心掛けている 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 日々のご利用者の心身の変化をよく観察し毎日の申し送り等での職員間で情報共有し必要に応じてご家族や医師に相談しながら努めている 毎月1回一人一人のカンファレンスを実施している 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、必要時にはその都度職員間でカンファレンスを行い一人一人のご利用者の状況把握・改善を行い介護計画へ反映・評価をご家族と検討している ・必要に応じて常にご家族・医療等に報告・相談している 	毎月1回、その都度必要に応じて職員間でカンファレンスを行っています。利用者一人ひとりの状況については、居室担当者を中心に話し合いを行い介護計画への反映と評価を実施しています。必要に応じて医師や看護師にも相談し、最終的にはご家族の承認を得た上で取り組んでいます。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日勤・夜勤で個別記録を欠かさず記入 ・朝・夕の申し送り時職員間で情報共有化し介護、または介護計画に反映している ・日々の特記事項を支援経過へ落とし込みケアの統一に活かしている 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・秀峰会の中には様々なサービスがあり多くのケアマネージャーが在籍しているので利用者・ご家族の状況に応じて多方面に相談し必要に応じて対応できる協力体制がある ・必要があれば速やかに区役所や地域包括支援センターへ繋げていく 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小中学校との交流や町内会のイベント参加等を通じて張りのある生活を持って頂いている ・地域ボランティアの積極的な受け入れにより様々な人たちと交流し生活に豊かさが生まれている 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前は別の往診医を利用していたご利用者もいたがご利用者・ご家族の希望で現在は協力医療機関を利用されているご利用者が全員であるがご利用者やご家族の希望を尊重しながら支援していくことには変わらない 	協力医療機関として、同法人内診療の内科・歯科の往診が月2回ずつあります。内科医は24時間対応してもらえるオンコール体制をとっており、緊急時でも的確な指示をもらえるので職員の安心にも繋がっています。現在は協力医療機関を全利用者が利用していますが、家族・利用者の希望を尊重した支援を行っています。訪問マッサージを利用している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日（午後）みずほクリニック訪問看護師が訪問しご利用者全員の健康チェックを行っている ・24時間、特変時には相談し随時先生の指示が受けられる 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の入院時には必要事項を提供できるよう常に準備をしている ・入院があった場合定期的に医師、ご家族と連携をとり情報共有し退院にむけての準備に努めている ・面会時に病院関係者との関係づくりに努めている 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に必ず説明を行いまた入居中身体状況等に変化が生じた場合ご家族と協力医療機関等と話し合い確認しあいながら取り組む仕組みができています 	契約時に重度化や終末期についての説明をしています。事業所の方針として、医療行為を必要としない場合は看取りを行います。身体状況等に変化が生じた場合は家族・医師・看護師・管理者で話し合いを重ね、家族に納得していただいた形での支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に事業所内・外で研修を行い職員全てが情報共有しいざという時の実践力を身につけている 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に避難訓練を行っている（年6回） ・運営推進会議等で地域の協力が得られる体制作りができています ・町内会との「災害時協力協定」を取り交わしている ・災害時の備品の備蓄をしている 	年6回の避難訓練を実施しています。内デイサービスと合同訓練が2回、杉田消防立会いの訓練を1回行い指導やアドバイスを頂いています。運営推進会議でも防災・災害時の協力体制について話し合いや町内会と「災害時協力協定」を取り交わしており、災害時の体制づくりが整っています。備蓄品としては、水・食料・救急セット・オムツ・ラジオを用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のご利用者の尊厳・プライバシーに配慮した支援を行っている ・プライバシー保護の研修を行い職員間でも常に心掛けている 	<p>プライバシーや利用者の尊厳に配慮した支援を心がけています。法人事業部の方針として「ケアの質の向上」に取り組んでおり、申し送りでも月に目標を発表して復唱しています。また、職員間では利用者をイニシャルで呼ぶように心がけ、他の利用者に気づかれないように配慮しています。</p>	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者が常に気持ちを伝えられる環境作りに努めご本人の意思確認を行い自己決定ができるよう働きかけている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・団体生活としてのおおまかな流れはあるがその中でもご利用者のペースを大切に支援を行っている 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類等ご本人と一緒に会話し楽しみながら選んで頂いている ・衣服は日常ご本人がお使いになる物は出来る限り一緒に買い物へ行き選んで頂いている ・入浴や洗顔後の化粧品ブラッシング等も楽しみながら出来るよう支援している 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の座席の配置に配慮している ・ご利用者が出来る事に合わせ調理・盛り付け・片づけ等に参加して頂き食事の楽しみを盛り込んでいる ・ご利用者とお買い物へ行き食材も選んで頂いている 	<p>食材はレシピ付きで業者に委託しています。昼食はデイサービスの食事が届くようになっていますが、朝・夕は作っています。可能な方には下膳やテーブル拭きを手伝ってもらったり、職員と一緒に調味料の買い出しへ出かけています。また、行ける方はデイサービスの車を借りて職員と一緒に外食に行き、外食に行くのが困難な方は事業所に残り出前を注文して食べてもらっています。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のご利用者の状態に合わせた食事形態や量の工夫を職員全員で周知し理解している ・お茶の時間二種類のお茶を用意しご利用者に選択して頂いている 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後声掛けにて個々のご利用者に合わせて口腔ケアを行って頂き必要に応じ職員が手伝っている ・訪問歯科を導入し歯科衛生士による口腔ケア指導を職員へも行いご利用者へのケアに活かしている 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を用いて個々の排泄状況を把握している ・職員は自立度の変化に応じた支援方法をカンファレンス等で検討し情報共有と対応法の統一を心掛けています 	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行っています。職員は利用者の自立度に合わせた支援を行い、トイレ内に棚を設けてパットを置き声かけし続けた結果、自分でパット交換出来るようになった方もいます。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り自然な排便が見られるように運動等を促しを行っておりますが薬剤に頼らざるおえないご利用者については与薬の管理を確実に行うようにします 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴しない日が2日あく事がないようにチェック表で管理すると共にできる限り希望に応じるように対応しています ・必要に応じて柔軟に対応しご利用者のニーズに合わせている ・入浴拒否のご利用者へは職員を交代するなどの対応をし無理強いはいしない 	体調不良等がない限りは、入浴しない日が2日開くことが無いようにチェック表で管理しています。利用者の意向や気分に合わせて柔軟な対応で浴室へ誘導し、無理強いしない入浴支援を心がけています。また、リフト等の設備は無い為、リフトが必要になった段階で次ステップの移行を考えるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活のリズムを把握し起床と入床の声掛けを行うと共に更衣等の介助も個々に合わせ対応している ・入眠時に安心が出来るように支援を行い安眠が確保できるように支援しています 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者個々の医療ファイルや薬ファイルを見やすいように整理し職員が疾病と処方薬の理解ができるように努めています ・グループホーム事業部統一の服薬マニュアルに添って支援し誤薬ゼロに努めています 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のご利用者の生活歴や嗜好等の情報を収集しホーム内で過ごす日々の中で可能な限り取り入れて気分転換が出来るような支援を心掛けています 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人様からの申し出があった際には極力希望に添えるように努めている ・公共機関への手続きや買い物等への同行の支援や祭事等の地域行事への外出支援もご本人の意思を確認しながら行っています 	週2～3回は外出する機会を設けていますが、その他、散歩や買い物など本人から申しがあった際には極力希望に沿えるように支援しています。高台に位置している為、散歩コースとしては遠くまで歩くことはできませんが、事業所の近辺を歩いたり、デイサービスの車を借りて上大岡のスーパーへ出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様が金銭管理を維持する事の意義を関わる職員全員が理解できるよう指導している ・外出等にご本人が支払いを行えるように支援を行うと共にその情報を職員間で共有するように努めております 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 電話利用の申し出のあるご利用者には取次ぎの支援を行うように努めています ご本人宛の書簡はお渡しした後に必要に応じてコピーを取らせて頂いております 携帯電話の持ち込みも出来る限り制限せず使用して頂いている 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 共有フロアの壁面を利用して季節を感じて頂けるような手作りの掲示物を飾っておりその作成作業にご利用者が関わる事で達成感や満足感を感じ居心地良い環境となるよう配慮しております 気候の変動にも柔軟に室温の調整を行い不快感を持たないで頂けるよう配慮しています 	共有フロアの壁面には季節の作品やカラーボードで作成した作品を飾ることで、話題のきっかけ作りになっています。また、食事スペースとテレビを観るスペースを別けることで、生活のメリハリが生まれ、セラピー犬の「ピコ」が職員と利用者笑顔と癒しを与えてくれています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 共有の空間においてはソファ席とテーブル席・事務スペースを活用する事でご利用者間のトラブルを軽減できるように心掛けている ご利用者が不快感を持たないように職員が配慮しています 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室内のレイアウトについてはご本人及びご家族の意向を尊重しつつご本人が居心地良く生活できるようアドバイスを行っている ご自宅で使用していた品物を持ち込んで頂き居心地の良い環境作りをしています 	居室の造りは全てバラバラで、一般家庭の部屋と同じような雰囲気を出しています。クローゼット・エアコン・ベットは施設側の備品として用意されていますが、家具・家族写真等については使い慣れた物や思い出の品物を持ち込んで頂き、家族・利用者の意向を尊重し、本人が居心地良く過ごせる環境作りに努めています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> トイレや浴室等には手すりが設置されております 通路にも手すりを設け自立歩行を助け転倒防止の工夫をしている 必要に応じて福祉用具を取り付ける事で安心して過ごして頂けるよう工夫している 		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム磯風の謡

作成日

平成27年10月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	ご利用者重度化に伴い介護が必要な方が多くいる、自立されている方が孤立してしまう時間帯が出来てきている	アクティビティー等、ご利用者全員で出来る事はそのまま継続し、その他、職員が個別に対応する事でご利用者の満足度を上げる	職員側の都合を優先するのではなく介助時間をずらすなど職員がご利用者全員と関わる時間が持てるようにする	一年間
2	47	服薬事故を未然に防ぐ	服薬事故ゼロを目指す	事業部統一マニュアルに添って服薬介助を行う 会議・研修等で職員の服薬への意識を高める	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。